

安曇野市版

レッドデータブック

AZUMINO CITY RED DATA BOOK 2014

安曇野市の絶滅のおそれのある野生生物と重要な自然環境

【概要版】



オコジョ
Mustela erminea



クモツマキチョウ
Anthocharis cardamines



ヒメオオクワガタ
Nipponodorcus montivagus montivagus



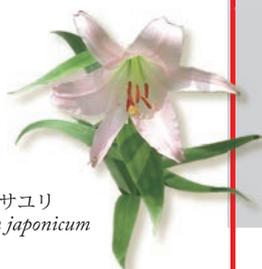
オオルリシジミ
Shijimiaeoides divinus barine



トノサマガエル
Rana nigromaculata



ニッコウイワナ
Sakvelinus leucomaenis pluvius



ササユリ
Lilium japonicum



クマタカ
Nisaetus nipalensis

作成の目的、活用方針

安曇野市には、北アルプスの高山帯から、三川合流域の湧水地に至る多様な自然環境があり、様々な野生生物が生息・生育しています。しかし、そのなかには絶滅の危機に瀕している生物もみられます。

そこで、市では、『安曇野市環境基本計画』の「望ましい環境像を実現するための取り組み」の一環として、安曇野市において絶滅のおそれのある野生生物や重要な自然環境について記載した「安曇野市版レッドデータブック」を作成しました。

今回レッドデータブックに整理した内容を活用しつつ、自然豊かな安曇野市を次世代に引き継いでいくために、市民一人ひとりができることをはじめてみましょう。

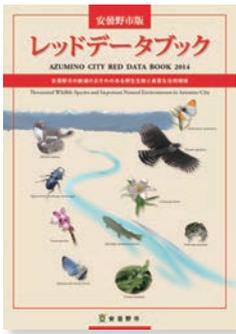
安曇野市版レッドデータブックは、安曇野市において以下の取り組みを進めていく上での基礎資料となります。

- 自然環境を大切にしまちづくり
- 希少な生物の生息・生育環境の保全活動
- 希少な生物や自然環境に関する市民の理解向上

● レッドデータブックとは

レッドデータブックとは、生物多様性の保全のために、絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト種）の情報をまとめた本のことです。

安曇野市版レッドデータブックでは、安曇野市において絶滅のおそれのある野生生物だけでなく、「安曇野市の自然環境の特徴」や「人と自然とのかかわり」について紹介するとともに「自然環境を守るための取り組み」についても記載しています。



【安曇野市版レッドデータブックの記載内容】

- 安曇野市の自然環境
- 人と自然とのかかわり
- 安曇野市の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト種）
- 安曇野市の重要な自然環境
- 安曇野市の自然環境に悪影響を及ぼす可能性がある生物（注意すべき生物）
- 安曇野市の自然環境の現状と課題・自然環境を守り、回復させるための方策

● 安曇野市の自然環境

○ 自然環境の概要

安曇野市は、長野県の松本盆地のほぼ中央にあり、西側は急峻な北アルプス、東側にはなだらかな筑摩山地があります。これらの山々を水源とする犀川や烏川等の河川が流れ、標高の低い場所には湧水地帯があります。

安曇野市は、標高 2,922m（大天井岳）の高山から、497m の平野部までの、変化に富んだ地形があり、河川や地下水も豊かであり自然環境は多様性に富んでいます。その結果、この地域には多くの野生生物が生息・生育しています。

○ 人と自然環境とのかかわり

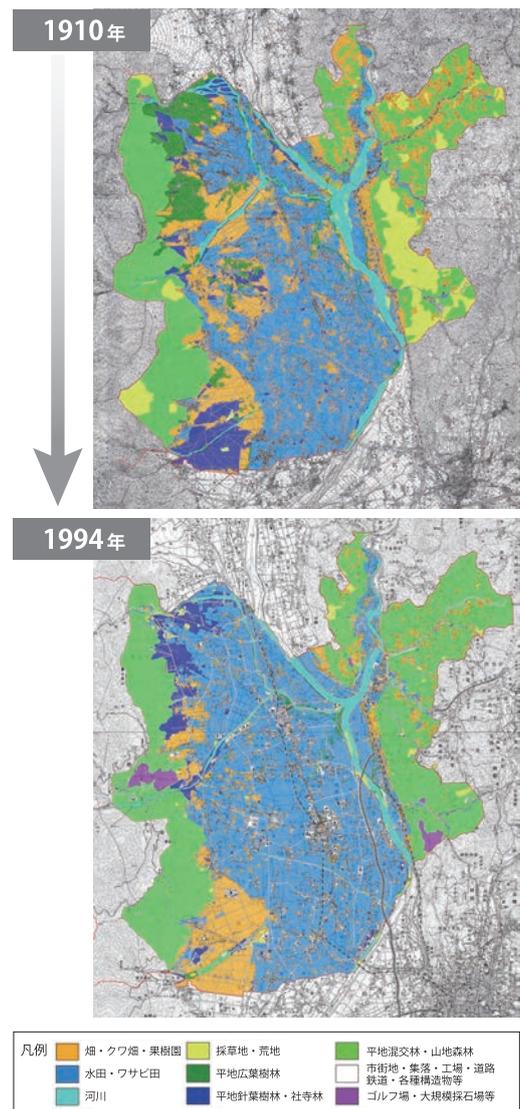
これまで安曇野の人々は、生活に必要な物資の多くを家の周りの自然物から持続的に利用できるよう工夫し、自然と調和した暮らしを送ってきました。今でも、豊富な湧水を利用したワサビ田や養魚等、豊かな自然の恩恵を受けて生活しています。

○ 安曇野市の自然環境の変遷

高度経済成長期の 1960 年代以降、農業の機械化や交通網の整備、大規模開発がおこなわれ、薪炭や有機肥料等の自然資源を供給する場所であった里地里山は、利用頻度が低くなり、その多くは荒廃しました。

これら私たちの生活様式の変化や開発行為は、安曇野市の自然環境を大きく変え、私たちにとって身近であった野生生物が徐々に姿を消してしまっています。

【安曇野市の土地利用の変化】





● 安曇野市の重要な自然環境

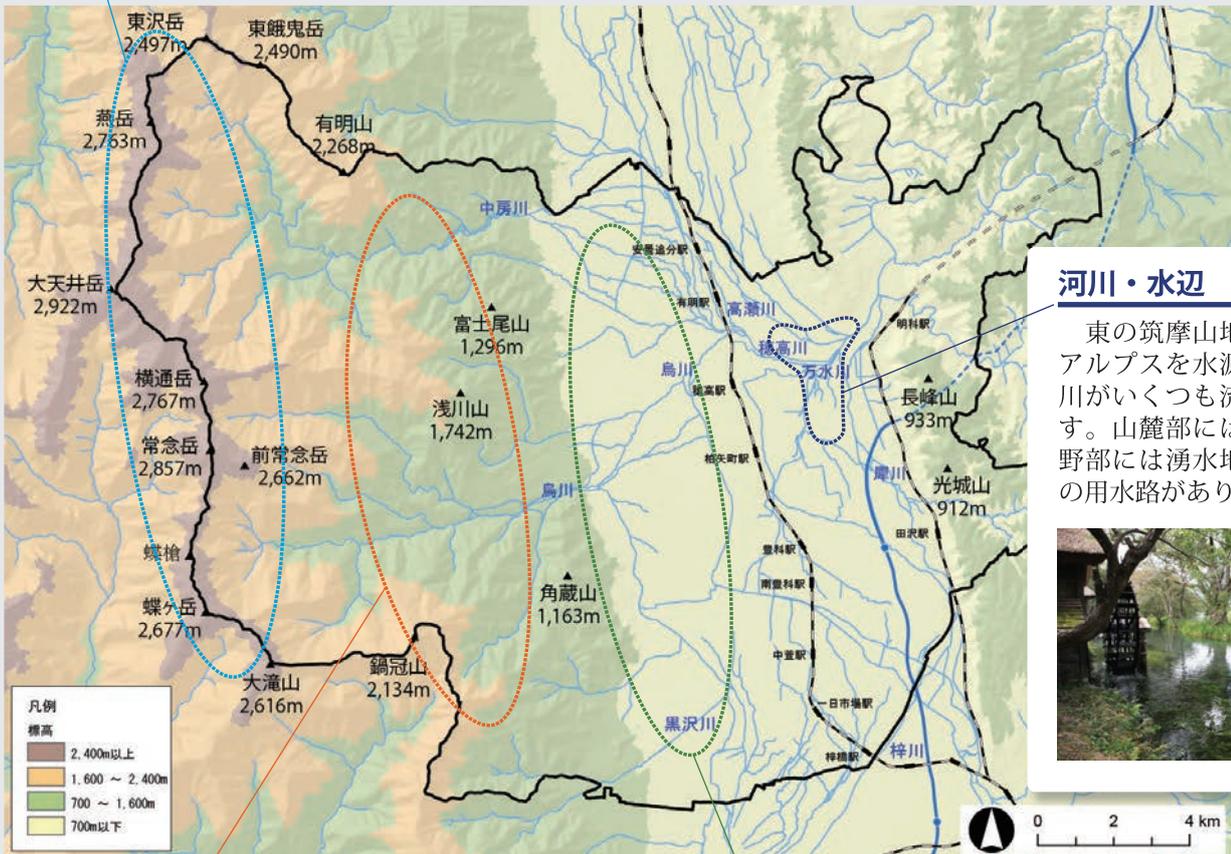
本書では、安曇野市の自然環境を高山帯、亜高山帯、山地帯、山麓部・平野部、河川・水辺の5つに区分し、それぞれの区分の代表的な地域を選定するとともに、その自然環境の特徴や主に生息・生育する野生生物を紹介しました。

区分した自然環境ごとの特徴は、以下のとおりです。

高山帯、亜高山帯

高山帯は、一年を通じて気温が低く、強風が吹きやすいため、高い木は生育できません。主に高さが低いハイマツ林や高山草原、露岩裸地等があります。

亜高山帯は、主に常緑針葉樹林により構成されています。標高の高いところでは雪崩により落葉広葉樹林が成立しています。高山帯との境界にあたる森林限界付近には草原があります。



河川・水辺

東の筑摩山地や西の北アルプスを水源とする河川がいくつも流れています。山麓部には溜池、平野部には湧水地帯、多数の用水路があります。



山地帯

山地帯は、主に人により造られた二次林・植林地から構成されています。一部に天然林が残っています。



山麓部・平野部

山麓部・平野部は、私たちが生活している場所です。市街地や工場、水田や畑等があります。特徴的な環境として社寺林や屋敷林もあります。



● 安曇野市の絶滅のおそれのある野生生物(レッドリスト種)

安曇野市版レッドデータブックでは、レッドリスト種として、安曇野市に生息・生育している野生生物のうち、個体数や分布域が減少し、絶滅のおそれが高まっている生物を選定しました。

選定された生物は、植物 342 種、哺乳類 14 種、鳥類 33 種、爬虫類 2 種、両生類 6 種、魚類 11 種、昆虫類 252 種、その他 14 種の計 674 種となりました。

● カテゴリーの説明

絶滅 (EX)	安曇野市内ですでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	安曇野市内で飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	安曇野市内で絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	安曇野市内で絶滅の危機が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	安曇野市内で存続基盤が脆弱な種
情報不足 (DD)	安曇野市内で評価するだけの情報が不足している種

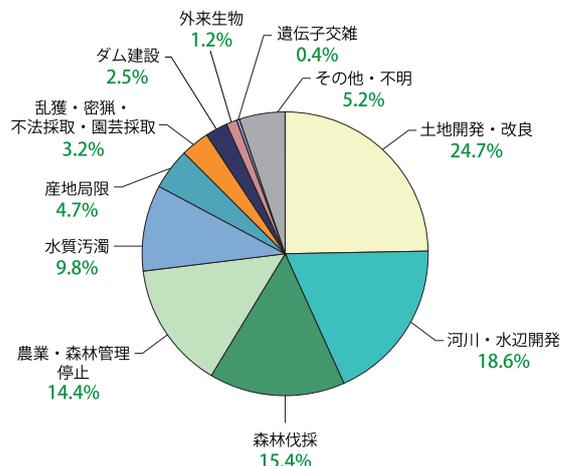
● 安曇野市版レッドリスト選定状況

分類群	カテゴリー						合計
	EX	EW	CR+EN	VU	NT	DD	
植物	32	0	95	92	104	19	342
動物	8	3	42	72	178	29	332
哺乳類	1	0	0	2	8	3	14
鳥類	0	0	9	5	10	9	33
爬虫類	0	0	0	0	0	2	2
両生類	0	0	0	1	5	0	6
魚類	0	3	1	2	4	1	11
昆虫類	7	0	31	61	140	13	252
その他無脊椎動物	0	0	1	1	11	1	14
合計	40	3	137	164	282	48	674

● 減少要因

選定したレッドリスト種の絶滅の可能性が高まった要因(減少要因)としては、土地開発・改良が 24.7% と最も多く、次いで、農業・森林管理停止、森林伐採、河川・水辺開発等でした。

この他、生育地や生息地が極めて限定されること(産地局限)や、ダム建設等も要因となりました。





●主なレッドリスト種



CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類

セツブンソウ

山地帯の落葉広葉樹林に生育しています。開発等による生育地の減少や園芸用の乱獲により個体数が減少しています。



CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類

カワヂシャ

穂高の細流や放置されたワサビ田等に生育しています。湧水地の開発等により生息地が悪化・減少しているほか、外来種のオオカワヂシャの繁茂により、個体数が減少しています。



VU：絶滅危惧Ⅱ類

オヤマノエンドウ

高山帯の砂れき地や草原に生育しています。登山者による踏みつけ等により個体数が減少しています。



NT：準絶滅危惧

ケシウヤナギ

河川敷に生育しています。河川開発等による生育地が悪化・減少しているほか、外来種のハリエンジュとの競合により、個体数が減少しています。



VU：絶滅危惧Ⅱ類

アズミトガリネズミ

亜高山帯から高山帯の森林や草原に生息しています。森林伐採等により生息地が悪化・減少しています。



NT：準絶滅危惧

ヤマネ

山地帯から亜高山帯の森林に生息しています。森林伐採により生息地が悪化・減少しています。



CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類

ライチョウ

高山帯に生息しています。生息地が高山帯に限られているため、温暖化やニホンジカの進出等により高山帯の環境が変化すると個体数が急速に減少する可能性があります。



VU：絶滅危惧Ⅱ類

ヤマセミ

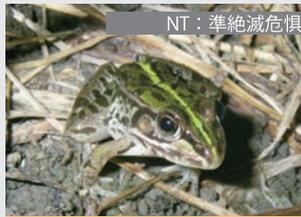
河川上流域や山麓部の河川等に生息しています。巣穴を作る崖の減少により個体数が減少しています。



DD：情報不足

シロマダラ

山麓部から山地帯に生息していると考えられますが、詳しい状況は不明です。



NT：準絶滅危惧

トノサマガエル

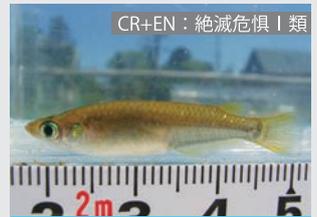
平野部を中心とした水田に生息しています。水田の減少や用水路のコンクリート化等により生息地が悪化・減少しています。



NT：準絶滅危惧

ヒダサンショウウオ

山地帯の溪流沿いの森林に生息しています。森林伐採やダム建設等により生息地が悪化・減少しています。



CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類

ミナミメダカ

犀川、高瀬川、穂高川の三川合流周辺等に生息しています。圃場整備や用水路のコンクリート化等により生息地が悪化・減少しています。



VU：絶滅危惧Ⅱ類

ホトケドジョウ

犀川河川敷の細流、湧水湿地等、湧水が流れる場所を中心に生息しています。圃場整備や用水路のコンクリート化、水質の汚濁・汚染等により生息地が悪化・減少しています。



VU：絶滅危惧Ⅱ類

ゲンジボタル

山麓部・平野部の小河川や用水路に生息しています。用水路のコンクリート化等により生息地が悪化・減少しています。



NT：準絶滅危惧

ムカシトンボ

山地帯の河川上流域から源流域に生息しています。河川開発等により生息地が悪化・減少しています。



NT：準絶滅危惧

ヒメギフチョウ

山麓部から亜高山帯の二次林等に生息しています。二次林が管理されなくなり、林内が暗くなったことにより、生息地が悪化しています。

● 注意すべき生物

○ 注意すべき生物の選定状況

注意すべき生物は、安曇野市の自然環境に悪影響を与える可能性が高く、次の4つの条件のうち、いずれかに該当すると考えられる生物を選定しました。

安曇野市には、すでに多くの外来生物が侵入しており、あきらかに在来生物に影響を与えている生物もみられます。

- ①在来生物の捕食・競合・駆逐
- ②交雑による遺伝的かく乱
- ③在来生物への病原菌・寄生虫等の媒介
- ④生態系基盤（生物の生息・生育環境）の改変

分類群	在来生物	外来生物			合計
		特定外来生物	要注意外来生物	その他	
植物	0	3	7	5	15
動物	7	8	7	4	26
哺乳類	2	1	0	1	4
鳥類	0	2	1	0	3
爬虫類	0	0	0	0	0
両生類	0	1	0	0	1
魚類	0	3	3	0	6
昆虫類	5	0	2	1	8
その他無脊椎動物	0	1	1	2	4
合計	7	11	14	9	41

● 主な注意すべき生物の紹介



★本来の分布域：北アメリカ
河川敷を中心に広い範囲でみられ、在来の植物を覆って枯らしてしまう被害がでています。市民による駆除活動も行われています。



★本来の分布域：北アメリカ
市内の道路脇や河川の草地を中心に分布しています。在来の植物を駆逐する影響がでています。



★本来の分布域：ヨーロッパ、西アジア
市内を流れる河川に広く生息しており、在来魚類を食べて減少させることなどが心配されています。



全国で生息数が増加傾向にあり、農林作物や、植物への食害が発生しています。市内でも目撃数が増えており、農林業への被害拡大や、北アルプス高山帯の環境破壊が心配されています。

● 自然豊かな安曇野市を次世代に引き継ぐために

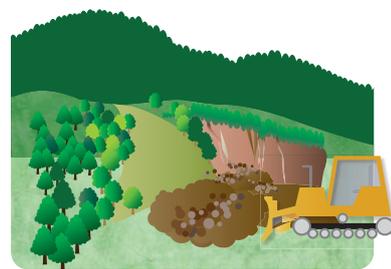
○ 安曇野市の自然環境の現状と課題

安曇野市には、平地から北アルプスの高山帯まで豊かな自然環境が残されています。

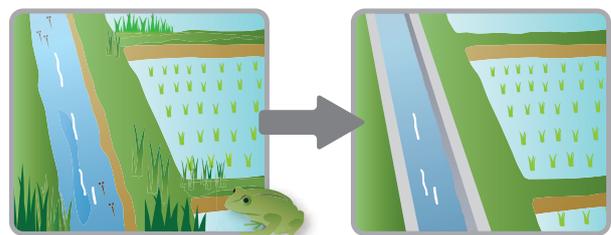
しかしながら、近年の、特に高度成長期以降の私たちの暮らしの変化は、自然環境や生物多様性に影響を与えています。

レッドリスト種の絶滅のおそれが高まった主な要因は、以下の4つがあげられ、次世代に豊かな自然環境を引き継ぐための課題です。

- ・人間活動や開発による危機
- ・人間活動の縮小による危機
- ・人間により持ち込まれたものによる危機
- ・地球温暖化による生物多様性への影響



● 開発による環境改変



● 圃場整備による用水路のコンクリート化



◎ 自然環境を守り、回復させるための方策

安曇野市の自然環境を守り、回復させていくには、市民、事業者、行政等、様々な立場の人が協力し、それぞれできることに取り組むことが大切です。

- ・ 開発行為をおこなう際の配慮
- ・ レッドリスト種の保全活動
- ・ 里地里山環境の荒廃を防ぐ取り組み
- ・ 注意すべき生物の駆除や分布拡大防止
- ・ 普及啓発活動
- ・ 調査・研究

【取り組み事例】



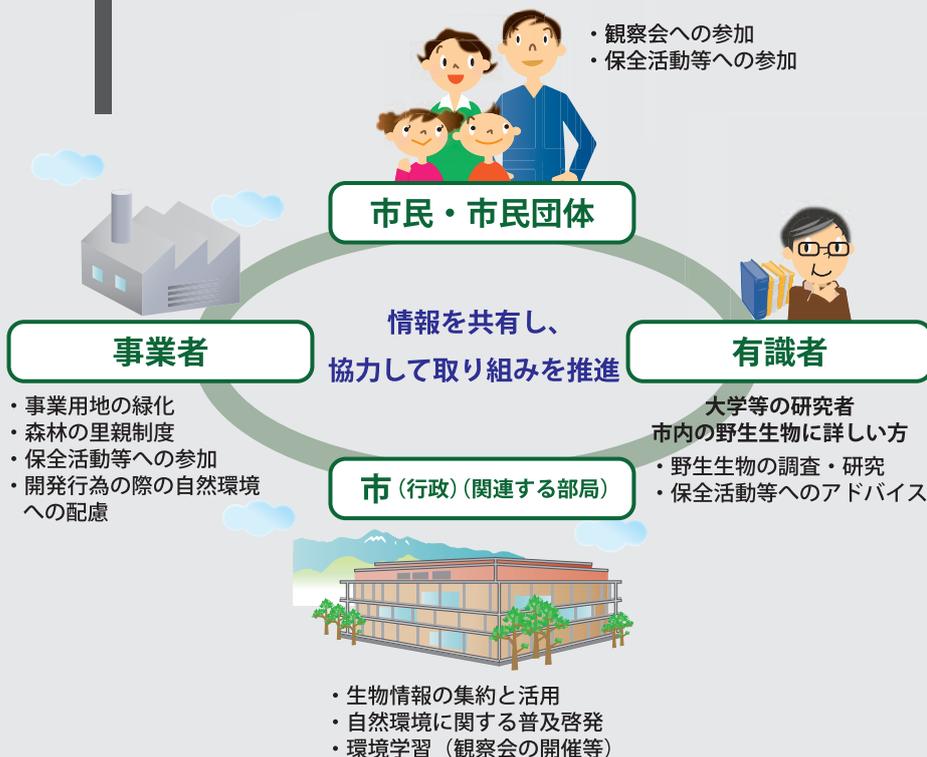
▲特定外来生物（アレチウリ）の駆除活動の様子



▲自然観察会の様子の様子

◎ 自然環境を守るための体制づくり

自然環境を守り、回復していくためには、市を中心として、市民や有識者、事業者が自然環境に関する認識と情報を共有し、協議していく体制づくりが必要です。



● 自然環境を守り、回復させるために、市民一人ひとりが取り組めること

次世代に豊かな自然を残すため、市民一人ひとりができることに取り組んで、安曇野市の自然環境を未来へ残しましょう。

安曇野市の自然環境を・・・

● 知ろう！

- ⇒身近にどんな生物がいるのか調べてみよう。
- ⇒自然観察会等へ参加してみよう。

● 守ろう！

- ⇒自然環境の保全活動、外来生物の駆除活動等に参加してみよう。
- ⇒自然環境や野生生物に関する法律やルールを守ろう。
- ⇒栽培・飼育していた生物を野外に放さないようにしよう。

● 広めよう！

- ⇒わかったことは、みんなに伝えよう。
- ⇒家族や友人等と自然について語り合ってみよう。
- ⇒自然環境を大切にする心をみんなで育もう。



◎ 作成の経過

レッドデータブックの作成にあたっては、野生生物に詳しい専門家からなる「安曇野市版レッドデータブック作成委員会」を設置し、現地調査を実施しながら掲載内容（レッドリスト種や重要な自然環境等）の検討をおこなってきました。



▲作成委員会

2011年

- ・作成委員会の設置
- ・現地調査
- ・以前の調査データの整理
- ・作成方針の検討

2012年

- ・現地調査
- ・レッドリスト種の選定
- ・重要な自然環境の選定
- ・掲載内容の決定

2013年

- ・レッドリスト種等の調整
- ・原稿執筆
- ・編集、レイアウト作業

詳しくレッドデータブックの内容を知りたい方は

レッドデータブックの冊子は、市内の以下の場所で閲覧できます。

- 市役所、支所
- 図書館
- 小学校、中学校、高等学校

また、有料（1冊 1,000円）にて冊子の販売をおこなっています。購入を希望される方は、安曇野市市民生活部環境課（下記の問い合わせ先）までご連絡下さい。

問い合わせ先

安曇野市市民生活部環境課

〒399-8303 安曇野市穂高 6658 番地（穂高支所内）

TEL. 0263-82-3131 FAX. 0263-82-6622

E-mail kankyuu@city.azumino.nagano.jp